資料５
地域交流部会

統合小学校 PTA 組織運営について

１　新組織の基本理念と名称について

従来の PTA という名称・組織形態を刷新し、子どもたちの成長を軸に大人も無理なく参加できる体制を目指す。

■ 新名称： キッズ・パートナーズ・しただ（略称：KPS）

※趣旨： 子どもたちをサポートし、共に成長しながらより良い教育環境をつくる組織

■ 組織の３大理念

(1) 子どもたちが喜び、大人も無理なく楽しめる範囲での活動
(2) 保護者同士や教職員、地域との交流および情報交換の場
(3) 保護者や教職員の学びと成長につながる場

■ 加入の考え方： 基本加入としつつも、個人の意思を尊重する柔らかな運用

２　課題と改善策について

保護者および教職員から寄せられた「負担感・困りごと」を４つのカテゴリに分類し、新組織での対応策を整理した。

(1) 役員・組織運営の負担軽減

従来の問題点・保護者の声	新たな PTA 組織（KPS）での対応
【強制感・役員の押し付け】 ・やりたくない役員に強制従事させられる感がある。 ・子どもが複数いると中学校役員と重なる等、毎年のように役員となり負担が大きい。	【役員数の最小化】 ・PTA 役員数を最小化。５校から各１名「運営委員」を選出し、５名で企画運営を行う。
【長期間の役員内定】 ・３～５年生在学時から６年生時の役員が決まっており、負担感が強い。	【希望制・柔軟な選出】 ・運営委員は６年生の保護者に限らず、やりたい時期に参加できる形式とする。
【会長の負担とノウハウ継承の不安】 ・会長は会議出席や来賓挨拶など人前で話す負担が大きい。	【役割分散とサポーター制度】 ・固定の会長職は置かず、来賓挨拶等は５名で交代（対外代表のみ決定）。

(2) 委員会・専門部会の見直し

従来の問題点・保護者の声	新たなPTA組織（KPS）での対応
【専門委員会の多さによる高負担】 ・保健・広報・地区などの専門委員会が多く、役員に当たる確率が高く負担になっている。	【専門委員会廃止・学年委員へ集約】 ・学校行事補助の専門委員会は設置せず、原則廃止。 ・広報は必要性が低く、地区役員は危険箇所等の地域情報は地域から直接収集できるため廃止し、役員は「学年委員（クラス×２名)」のみとする。
【学年ごとの交流の必要性】 ・保護者全体の交流だけでなく、各学年ごとの交流の場は必要である。	【学年委員の設置】 ・各学年の交流や行事企画を担う「学年委員」を位置付け、交流機会を確保する。

(3) PTA行事、学校行事への協力

従来の問題点・保護者の声	新たなPTA組織（KPS）での対応
【PTA行事の過多】 ・PTA主催の行事回数が多くて負担が大きい。	【行事の精選】 ・PTA主催行事は必要最小限度に絞り込み、精選する。
【学校行事での役員動員】 ・運動会や文化祭など学校主催行事にPTA役員が必ず従事することが負担。	【都度ボランティア募集へ変更】 ・役員が必ず従事する形をやめ、その都度、学校から全保護者へ「協力ボランティア」を募集する。

(4) 教職員の文書・運営負担

従来の問題点・教職員の声	新たなPTA組織（KPS）での対応
【教職員の文書・運営負担】 ・総会や各専門委員会の文書作り、行事案の作成、当日の運営業務などの負担が大きい。	【担当教職員数の削減】 ・専門委員会を廃止・精選することで、これまで担当していた教職員の人数を大幅に減らし、業務負担を軽減する。

資料５
地域交流部会

３　新組織「KPS」の役割・体制について



■運営委員（５名）

PTA 活動の企画・運営を担当。現行の会長・副会長に代　わる職だが固定の会長等は置かず、５名で役割分担して推進する。（※令和 10 年度は現小学校５校から各１名選出）

■学年委員（18 名）

学年行事を企画・運営する。各クラスから２名ずつ選出。

■会計監査（２名）

KPS の会計について、適正かつ効率的に使われているかを客観的にチェックする。学年委員が兼務。

■活動協力員（サポーター）定員なし・再任可

運営委員を補佐する役割。次年度の運営委員候補となり、スムーズな引継ぎのサイクルをつくる。

■事務局（学校内）

名簿管理や金銭管理などの事務実務を行う。